

テーマ：『 ひとりひとりが自然事象の不思議さを体感し、学ぶ楽しさを実感できる理科学習を目指して 』

宇都宮市立 晃陽中学校

Tel. 028-665-0042 担当者 中村 靖之



「不思議」→「面白い」へ

理科離れ対策に教材展示

教育10代のページ

宇都宮市の部中一階には、休み時間になると生徒が集まるコーナーがある。手取り焼くらの理科教材を並べた「晃陽中学校ふしぎコーナー」としての理科離れが解消される中、「不思議だ」と感じることが多くなると、昨年度から開催された。

理科の不思議を知ってもらおうと晃陽中に設置されている「晃陽中学校ふしぎコーナー」

宇都宮の中 手作りコーナーが人気

ふか入のペットボトルの中で浮く卵、ヘアレットルを巻く、手を使わずに紙を折る、卵を折った圧力、浮き卵の中の空気も折る、浮力が小さくなるため、沈んでいくという謎だ。

本年度から移行期間に入った新学期に向けては、「浮力の存在という内容が盛り込まれて、沈む卵まは中学校の理科教材が、四角は「日本の理科」として、子供たちの理解



下野新聞より一部抜粋（平成 21 年 6 月 28 日掲載）

■実践内容:

生徒ひとりひとりが、授業の中で自然事象の不思議さ、学ぶ楽しさを体感できる理科学習を実践していくために、次のような日々の理科学習を展開し、さらに学校全体の学習環境を整えた。

- (1) 体験や探究活動を中心とした理科の授業
- (2) 知的好奇心を喚起していくための、体験型展示物の充実
- (3) 生物を飼育することで、生命に対する畏敬の念や優しい心を育む

■実践成果:

生徒は、毎時間の授業を楽しみにしており、授業開始のチャイムが鳴る前から理科室に移動して、「先生、今日はどんな実験をするの?」と期待を込めて聞いてくる態度が見られるようになった。これは、実施内容のような理科学習の実践を重ねることで、生徒の自然事象への興味・関心が確実に高まったものといえる。また、理科授業の中で課題解決的な学習（自ら課題解決のための観察・実験の方法を考え、観察・実験を行い、その結果を考察し、その成果を発表していく）をスパイラルに経験していくことで、ひとりひとりが科学的に探究する楽しさや喜びを知り、理科への興味・関心がさらに高まり、理科を学ぶ喜びが実感できるようになった。

さらに、1 階の職員室前にさまざまな理科展示物コーナーを設置したことで、自然科学に対する知的好奇心を高めることができ、豊かな心の育成の一助にもつながった。このコーナーについては、下野新聞社の取材を受け、教育記事として、掲載された。

■実践ポイント:

授業実践の祭には、生徒一人ひとりが観察や実験にかかわれるよう教材・教具の個別化を出来るだけ工夫した。理科展示物コーナーでは、不思議なおもしろい科学グッズをそろえ、見て・触れて・遊んで体験できるものを取り揃えた。また、定期的に展示物を模様替えし、科学への知的好奇心が継続するよう心がけた。